

告発される高校教育



トで
起
ハンス
問題

政治活動禁上に反発

本質欠いた討論会

高校生の政治活動を禁止した府教委通達、文部省見解をめぐりて、全国各地の高校で批判の声が高まっているなかで、某校高校でも三人の生徒（三年生一人、二年生一人、いずれも男子）のハンストや生徒自治会の活動などから、多数の教師・生徒が参加し金体討論会が開かれた。また、昨年十月実施された修学旅行で三人の生徒が「受験体制下における、娘化した修学旅行に意義は見いだせない」との反修学旅行宣言を発表、これをボイコットした。卒業式においても数人の生徒が「学校側から押しつけられた卒業式など、センス」と出席を拒否、迷津も禁止された。

一方これらの活動に反対する一部「暴力的高校生」はハンストをした生徒たちに暴行を加えたり、脅迫などを行ない、卒業式前には数回にわたって自治会室を襲い、ロッカーや窓ガラスなどを、一連の暴力行為をわがもの顔に行なっている。このような現実を直視し、先の三つの問題提起を中心と現在の高校生は何を訴え、どう行動しようとしているのかをじとじとみた。そして学校側の日和見的な態度、一般生徒の無関心さを告発し、政府・自民党の反動攻勢によつていかに教育の場ががざれていけるかを追求し、「眞の教育」とはを考えてみた。二面に闇連記事、三面に解説

この府教委通達、文部省見解とは「高校生は大きな子どもで、判断力と社会的経験に乏しい」との理由で政治活動を禁止したものである。そして政治目的を持つ学校外のデモ、集会などへの参加は教育的立場から好ましくないので原則として禁止し、違法行為をして生徒たちは処分を含めて、適切な処置をし、ところがその大筋である。これに対し、生徒自治会を中心とする多数の生徒は鋭く反対してきた。そのうちの三人は、自分たちの意見を一般生徒に訴えるべく、ハンストという形をとった。このハンストは昨年十一月四日、午前八時～午後八時に職員室で行なわれたものである。この日、登校してきた生徒たちはこのハンストを見ていた。その日の授業は討論会となりかねず論をたたかわした。この授業も手につかないとずつだった。これに対する学校側は

発行所
豊中市北桜塚3丁目6番5号
編集局
益子夫滋
尚和会・編集者
木海稻葉
発行責任者
編集責任者

すべての偉大な真理は、最初は冒とくの言葉として出
発する。

G・B・ショウ

早急に対策を練り、放課後、先に自治会執行部から出されていた五項目の質問に答えるという形式の討論会に応じた。

自治会執行部の出した五項目
一、もし今本校生徒が政治活動に参加していることが明白になつた場合、賛成会議はその生徒に対する処置をどうするのか。参加した活動に応じての処置を具体的に。

二、今の教育体制（教育委員会）そのものを認めるのか。

三、府教委通達の内容を正しい

高校生の政治活動の是非が問われているなかでハンストが行なわれた。そこで三人の先生方に意見を聞いてみた。（この記事は校報『高校新聞』10号より転載）

高校生の政治活動の是非が問われているなかでハンストが行なわれた。そこで三人の先生方に意見を聞いてみた。（この記事は校報『高校新聞』10号より転載）

一九七〇年度、「尚和会」総会が開かれます。毎年、卒業生がふえてるのに金体討論会が盛り上がりなかったたまに、生徒の運営のままで、本質を確立して把握できなかったためがあげられる。しかし、学校側の管理著としての高度化、事務作の成功、そして一部反自民会執行部の生徒の暴力行為、脅迫などが金体討論会を形骸化せしめた原因の大半をしめてくる。

若者達のアイドル、パンズ・アンド・シザース、司会には元漫画トリオの横山一郎（本名・山田勇）、「ボインズ……」で人気絶頂の白鳥司朝、ゲバトル漫才で人気上昇中の正司敏江・玲兒、パンズには若者達のアイドル、パンズ・アンド・シザース、司会には元漫画トリオの横山一郎（本名・山田勇）、「ボインズ……」で人気絶頂の白鳥司朝、ゲバトル漫才で人気上昇中の正司敏江・玲兒、パンズには

五百人ほどの学生が来場をお待ちしております。

五百人ほどの学生が来場をお待ちしております。

五百人ほどの学生が来場をお待ちしております。

五百人ほどの学生が来場をお待ちして

母校は比較的やとなじい生徒が多く、世間で云ふ「われ」の意識を代弁しているにすぎないのではないか。それに対して、自分がわざわざ「無闇力」「無責任」「無主義」のねぬる三無主義者によって高校教育全体がゆがめられ、表面的には学生の子弟校化、充実した接業教師のサラリーマン化、政治活動の禁止、自治会活動の低下……となりてゐる。こうして現代の高校生は無意識のうちに自分の中に不満なり疑問なりを持つが、それを理論づけて明確に表現することができない。当然学校当局は問題を先取りしてうまく生徒をまるめこむか、それとも「三無主義生徒」をたてどり、少人数の生徒を異端兒扱いにして抹殺し、問題の本質を意識的に歪曲しよう。そこで問題意識の高い高校生は最も單純素朴、自らの自己利害をのりこえた闘争方針をたてるを得ない状況に追いこまれる。それが母校でのハンドストではないだろか。そして重要なのは、そのハンドストや、その他の実力闘争に対する常に一定程度の支持者がいるという事実である。すなはち現代の高校生運動は決して一部生徒の意いあがつた極左「冒險主義」ではなく、すべての高校生が多かれ少なかれ持つて

——解説——

身近かな問題題
かの出現して反体制運動にまで進んでいた高校生運動。われわれもまた一人の大人として考へ直さなければならぬよつた。

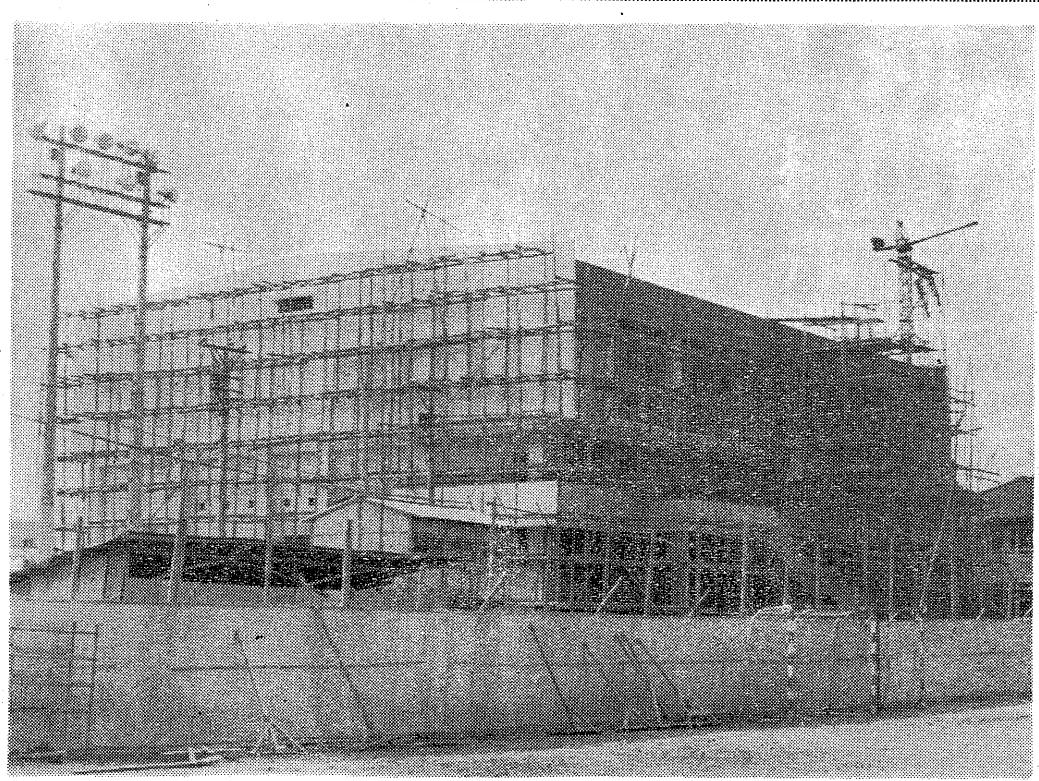
「私はこわいのです。選挙権のないわたしたちがなすすべもなく不安に見守つていみやぢに、この日本はどうぞ反動化止めてしまふ……それでも黙つて勉強していくのがわるいと思いまよ。私は、私達の未来が奪いかれていく『戦争反対』『反動化阻止』の時すこられないのです。なんにもしてくれない大人たちに、それをやめると、おまけに、なぜかはすゞめんなさいわよ。

高校生の悲痛な叫び

無責任な『大人』に怒り

解說

直近かたの問題題材として、かの出来事で反体制運動にまで進んできた高校生運動。われわれもまた一人の大人として考へ直さなければならぬよれた。「私はこういのです。選挙権のないわたしたちがなすすべもなく不安を見守っているわけに、この日本はどうんで反動化していくか……それでも黙つて勉強していくのがれると思ひますか。私達は、種達の未来が尊いからこそ『戦争反対』『反戦化阻止』と田舎どこのねらいでやるかなど、それをやめたいといふ権利なんないはずです」(女子高生)



完成まぢかい新体育館、あとは『お化粧』をまつだけ（3月22日撮影）

寄稿

解放教育について

ペ
ンを

こじとおおむじしより。しかしこれは来年も金
算なんですよ。われわれは来年も金
報の編集などいたさねりたて思つて
います。昨年の北原校長の寄稿文
の真田つばは「母校は毎日健在で
す」と書いた。こちこちこち違ひ
あります。

社会科からの報告

の労組である大阪府立高等學校の職員組合(府高教)は、共産黨の影響下にあり、「首先では同和教育(放教育とはいひません)」の重要性をいいながら、共産党に同調して、矢田や豊高の問題で部落解消同盟を非難しています。

はやからないが理解する、これが金子達、特に反日共系金子達においてけるあの種々難解のセクト。それらの理論を正確に理解しきつ拡張を加えるといふことは実際不可能に近い。そしてそれが高校生の場合になるとマルクス、エンゲルス、レーニン、トロツキー、一二反戦高連などセクトに属する高

力なしの子分なし

生組織に與ひるがために耳にこゝに一株の不安はあぐらをかく。何いかの不満を持つ者は数多シト。

中心的な活動するたる、「第一回」の武器で、部落解放同盟の解散を暴力として宣言し、一般大衆に差別意識を助長するといふ同様な行為が、部落解放のための運動以来の伝統を継ぐ対審答申の精神に反する行為をしす。(文責相沢昇)

和行政区に限定された特別の教育で、師が侵した矢田教育差別事件に介し、悪質な差別キャンペーンを理社会だけでなく、三年の日本古語を教えることの問題で取り上げる準備をしてあります。

貴の精神にのっとる基本的人権尊重 日本国産党は数年前から部落解
の教育が全国的に正しく行はれ 放題と敵対しておらず、昨年春に
るべきである……（中略）……同 大阪市教組員選挙で共産党員教
上り、わいに新年度では「1年の功
いむねいじゆく賞賛です。」
かい年の倫理社会の機運で取
り組んでまいります。

差別不平等、無宗教教育（同和教育）の落としの唯一の国民的組織である部落解放同盟との密接な連携を大切にしないといけません。同和対策として府高教のように政治的立場を堅持するむことなく、教育の場を持ち込むことは、常に民主主義実践のため、これまでやることです。

私たちは社会を救ひのめだらば
た府高教の方針を相手とせざ
えじこむ一部の学校を除いては、承して今日なお奮闘する未解放部
業

をいいながら、共産党に同調して、矢田と豊高の問題で部落解放司馬を併進して、います。

職員総会(鹿高講演) 共産黨の
下にあり「先生」は同和教育(放
教育ひがいじません)の書裏

て、いきまし。私たちの所属する教組の労組である大阪府立高等学校

尚和会・編集局
取扱中のエビフードですが、私が
幾度も母校へ足を運び取材したも
ので、彼の話をじっくりお見
のぞ。書ひの方には想像でござ

の彼は決していいではありません。しかし、この会報に書いてあることは、すべて事実です。私の後輩と私が

見、じ希望、じ接觸せんじくがなめし
したの左記の所までお送り下さい。

レポート ペンを さへて、 す」とした しかしここに残す。 「母校は田中病院です」 丸山

